

～ 須磨ユニバーサルビーチ活性化プロジェクト ～

活動の様子



アカデミックパートナーを締結



講習会の様子①



講習会の様子②



講習会の様子⑤

企画・活動概要

本プロジェクトでは、障害者がマリンスポーツを楽しむことのできる「須磨ユニバーサルビーチ」の活性化に向けた、介入・現状調査を実施した。具体的には、須磨ユニバーサルビーチを運営するNPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト(須磨UBP)と連携し、アクティビティへの介入、参加者へのアンケート調査を行った。



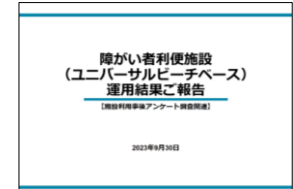
講習会の様子③

取り組む課題

- ・須磨ユニバーサルビーチ講習会への参加(+現地フィールドワーク)
- ・参加者へのアンケート調査の実施
- ・分析 & 結果の報告

本学(学生)の役割

まず、学生たちは講習会に参加し、活動の意義やビジョン・ミッション、運用ルール、来場者のアセスメント、またビーチマットや“ヒッポキャンプ”と呼ばれる水陸両用アウトドア車イスの安全な使い方について学んだ。活動の実態について知った後、調査項目について整理し、アンケート用紙(フォーム)の作成、調査の実施、データ処理、分析、報告資料作成に携わった。



アンケート調査報告書

経緯・背景・目的

須磨UBPは、「須磨ビーチを障がいのある方やご家族、小さなお子さん、お年寄りなど、みんなが気軽に安心して海を楽しんでもらえるユニバーサルデザインのビーチにしよう」という活動を行う団体である。活動への参入・アンケート調査を通し、活動の現状調査ならびに須磨ユニバーサルビーチの活性化に向けた提案を実施することを目的とした。



講習会の様子④

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

講習会では実際にヒッポキャンプに乗っての入水体験を実施し、入水時にどのような声かけが適切か、またどうすればより車イスの方楽しんでいただけるか、自主的に意見交換を行いました。また、アンケート調査においては、調査手法や分析、結果の提示に至るまで、研究としての基礎知識を習得しました。2月には、連携プロジェクトを実施するピンクマリーナクラブ(沖縄県・恩納村)でフィールドワークを実施し、次年度に向けた新たなプロジェクト始動に期待を膨らませていました。



ピンクマリーナクラブ(沖縄県恩納村)にて

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間健康学科
講師
青山 将己(アオヤマ マサキ)

<専門・担当科目等>
【スポーツプロモーション】
スポーツビジネス論、スポーツ組織論、
健康サービス企画運営演習

<関係者・企業等>



NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト
代表理事
木戸 俊介(キド シュンスケ)